

# かいはつ 第4号



羽根小学校 学芸会 影絵「さるかに」

岡崎市特殊教育推進協議会・昭和56年3月15日発行

## 国際障害者年にあたり

岡崎市現職教育委員会

特殊教育部長 太田 昇

今年に国際障害者年である、「全員参加と平等」のテーマのもと、多彩な諸行事諸施策の展開されることはまことに喜ばしいことと思う。しかしながら、喜ばしがるべき国際障害者年が、単なるお祭り騒ぎに終るならば、障害者にとっても、われわれ障害児教育に携わるものにとっても、得られるものは失望以外の何ものでもなく、かえって不幸なことといわねばならない。

私たちが障害児を取り扱ってつくづく感じることは、障害者の生きることへの抵抗が想像以上に大きいということである。自立が障害児教育の大テーマであることはいうまでもないが、障害児を自立させることはきわめて困難な道である。日常の実践の中では、発達の手がかりが遅々としていて、途方にくれることが多いが、ひとりひとりの子どもについて、自立への見通しをたて、発達のステップに応じた計画をもって教育にあたることが肝要である。特殊教育に従事するみなさんの研修と努力を期待したい。なお、自立させるという観点のない援助は、決して障害者のためにならないことも申し添えておきたい。

桑聖ヘーローベン、かれが聴力を失ったときの悲しみと苦しみは如何ばかりであつたらう。何年かの苦悩の日々を経て、これは自然の偉大な慈悲に生かされているという開眼を得た。そこに教育の世界があつた。

国際障害者年が、教育を一そうみのり豊かなものにする機会となり、国民がこぞって心から歓喜のうたを奏でる年になるよう、おたがいに努力することを誓いたいものである。

社会的自立を目指して

体力・気力・学力を育成

「生徒と共に」の三か年

甲山中 古井正晃



職業適性検査

生徒は勿論、両親も我が子の成長を祝うかのように晴れやかな笑顔で中学校入学式を迎えたのもつい昨日のように思えるのが三年生の三学期の二月頃である。毎年四月「今年も此の子らと共に」と気も新たに学習に、

運動に、訓練に励んできた。

個の指導の徹底

生徒ひとりひとりの性格が少しずつわかってくる六月頃には、A君には「返事の仕方」Bさんには「やれるまでやらせる」と指導の〇がまとまる。日々目に見えない程の進歩ではあるが、毎日の訓練が半年間続く、

箒の使い方、塵のとり方、応待の仕方など生活に結びつく〇を一年生の間にマスターさせてきた。問題点は、学校で学んだことを家庭では要求していないことがある。「一応やれば用は足せる」と思っておられるらしい。習ったことが必要とされなければ、学校だけのこととなる。でも毎日連続して行っていることが生徒の身についてくる。一年の初期より極く平易な学習の基本が併用されるが、二年生にもなれば程度は少し高くなる。一年生に何でもやりぬく事を重点に指導しておく、学習についても「やり抜こう」とする心

が働いて、生活が活発になる。

二年生には、来卒業するんだ、これくらい体力、気力、学力で会社へ入れるか、と言いつつ聞かせてやることにより、発奮してくる生徒もいる。お互いの間で負けまいと励んでくる、進度に合わせて提題してやり合格マークをつけてやることにしている。

入社試験を目指して

三年生となれば、ひとりひとりに具体例を示して、「これができる」と会社へ入れないヨ」と言いつつやり、毎日授業後、下校時核まで指導にあたる。三か年で社会人になる前に、入社試験がある。これに合格するため

に教師も生徒も必要に応じてクラブを中止して指導にあたらなければ成功はしない。教師は常に生徒と共に生活していることの大切さが近年一段とわかってきた感じがする。

担任は常時教室に

教室の一隅に職員の間をついで区画し、常時担任がそこにいる。職員室は朝礼の時に行くだけである。生徒の刻一刻の生活を見たり、聞いたり、話したりすることのできる環境が生徒の指導の成功の第一歩と思う。

「担任をしてはどうか。」と、相談を受けた時は、すぐに承諾することはできなかった。あれから、子どもと共に歩んだ十年間であった。

・特殊学級のようなす。  
・父兄の理解……等  
未知のことばかりであつた。まるで、トンネルの中に入った迷い子の中に入つた。はるかかなたに、かすかに光は見えるが、行くべき道程は未知であつた。

子どもと共に

歩んだ十年間

六名小 山岡恵了  
さしていただいてきた。障害児の持つて生きている力のすばらしさによって、障害を乗り越えて行く姿を見て、障害児を教えるのでなく、障害児と共に学ぶことを痛感している。

縁あって、十年間特殊学級を担任させていた。……等

昭和五五年度

市特殊学級の現状

小学校

精神薄弱学級

情緒障害学級

九学級

身体虚弱学級

一学級

難聴 一学級

院内 一学級

計 一五〇名

中学校

精神薄弱学級

十二学級

情緒障害学級

三学級

身体虚弱学級

一学級

院内 学級

一学級

計 一一二名



### 運動会

梅園小 四年

大玉おくりをやった。

白玉はきもちよさそうにはしっ

ていった。

赤玉はまっかなかおをしてはし

六年

六年のかけっこで はじめて一人おいぬいた。

### もうすぐ卒業

六ツ美中 三年

ぼくより大がた人間に勝ったぞ。先生にタイムをはかってもらってれんしゅうしといたからな。

三年

ほうしとりはいつもなけたけど

きょうは大きなこえではしった。

とられてもなかなかった。

六年

大きなこえでつなひきをやった。

力いっぱいひいたら足がいたく

なった。もつとがんばったら、

手のひらのかわがむけた。

### 羽根小 四年

評



大きな木の 下で、おべん とうをひろげ た遠足の楽し いようすがよ くかけていま す。

### 竜海中 二年

評



夕立ちにあ ったことや、 ヨットがうか んでいた夏の 海の思い出が よくかけまし た。



一九八〇年国際障害者年を迎

え、障害児教育は一層の発展と 充実が望まれています。障害児 が重度化し、多様化している今 日、障害児教育の基本は、一体 どのように考えたらいいのでし ょうか。

私は、人間の本来の特性に基 づいた発達の原因をもう一度よ く考えてみることはないかと 思っています。先人達がすでに

## 障害児教育の展望

愛知教育大学 池田勝昭

指摘している人間の発達系列に よる教育のあり方がここでは非 常に参考になるようです。人間 の発達の基盤ないし原点は、身 体の感覚や姿勢のバランス、身

次の「概念形成」につながりま す。 人間の高次の精神機能は、も ともとは、この身体の諸機能に 強く依存して発達するという認

体の操作や立位、歩行などの「 感覚―運動」の機能が十分に形 成されていることです。このこ とは、次の「知覚―運動」や「 言語―概念」、そしてもっと高

識が教育の基本でなくてはなら ないのです。種々の身体動作の 機能を重視した精神発達の教育 の方法が、今後はもっと注目さ れなくてはならないのです。 子どもは、とにかくよく体を

動かし、元気で跳んだり、はね たり、よく遊び、しっかりした 体を作って豊富な体験学習によ って力強い人間の発達の基盤を 培うことです。このことが、自 然により高次の発達を導びくこ とになるのです。

私は、子どもには、もっと多 くの遊びや体づくりの教育が必 要であり、重要だと思っています。 とくに障害児教育は、この ような考え方の教育が基本であ り、重要と思います。このこと が、結局は子どもの心と体の調 和的発達を促がすことになるの ではないでしょうか。

(岡崎市就学指導委員)

### 輪投げ体操

常磐小精薄学級

汽車汽車シュッポ ジュッポ 歌にのせて輪を回す

机に、床に、リズムを求め、

腕も、足も、大きく、グルグル

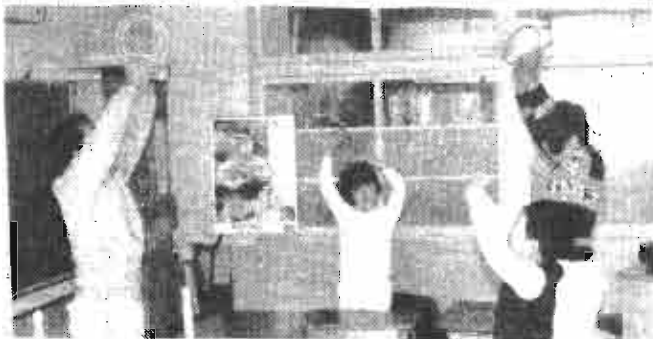
回す。

「おへそへ」と言うと、クック ッと笑う。

勉強に疲れた時は、いつも跳 る輪投げの体操。

疲れた頭も、スカッとさわや

か。右に左に動きを変えて、ス ピードにのって さあ 本調子。



輪投げ体操 学習風景

# 岡崎特殊教育の歩み

## 昭和二十二年 陽性転化者で学級を編成 四月より

私が担任であった頃

深津 時二郎

昭和十八、十九年と経営した青空学級もその成果をあげ、二十年度より普通学級に編成替えをした。二月頃よりはげしくな

った空襲下に、職員もつきつきに応召し、私も六月戦列に加わった。七月二十日遂に爆撃によって校舎は全焼した。九月一日より広幡国民学校を借りて二部授業となった。二十二年二月一日校舎復興するも二部授業は続いた。食糧、住宅、衣料難の中



旧連尺小学校校庭 S. 22.4

で新教育は胎動し二十二年四月六三制の小学校が発足した。この年より、再び陽性転化児童のみの特殊学級を入学児童から編成することにした。

### 特殊学級経営研究発表会

昭和二十二年七月、県より特殊教育の指定校として研究発表会を開催した。県より教育課の八田先生、岡崎市衛生会、同教育課より来賓を招いて、市内外の衛生関係職員の参加のもとに今日までの経営について発表した。その概要は、結核撲滅運動の一環としての陽転児童の発病防止と早期発見による健康の保持と増進を目的とし、基礎調査に、血沈、X線検査、体力検査、二部授業の日課表、衛生検査の記録、夏期特別指導、特殊学級の単元表、家庭、児童担任との健康相談

のの設定などである。学校医の指導と協力 学校医の前川齊先生、志貴彦人先生の献身的な診断とご指導を得て自信と力強さを覚えた。成果については、期間が短い上に、データも少いので、早急に結論を出すのは当を得ていないかも知れないが、つきのことについては見るべき結果があった。



特殊学級経営の効果 二十二年四月編入児童数三十七名中、学年末までに二名、発病早期発見、一名は二カ月、一名は一カ月程度で、七月編入児童十一名中、一名は二カ月、一名は一カ月程度の休養で全員健康を回復した。欠席日数百分率も低く、身長体重の増加も普通学級に比しよい結果であった。

インフルエンザにも強かった 何よりも、中学に進んだ昭和二十四年にインフルエンザが市内小中学校に大流行して欠席者が多い時に、養護学級の出身者は一人も欠席しなかったことであった。健康の自主的管理が身についた結果であると思うと、うれしさがこみ上げて来た。

元連尺小学校長



教育相談風景 S. 55.10.18

### 昭和五十五年 度 授業研究 活発な活動を展開 就学指導

本年度の現職教育特殊教育部会、特殊教育推進協議会、市就学指導委員会、研究サークル等の活動は活発で、年間三十五回の活動を行ってきた。次にその主な活動をあげると

七月二十九日 実技講習会  
十月一八日 第一回教育相談  
十一月一五日 就学指導委員会  
十二月 六日 第四回教育相談  
就学指導活動状況

### 就学児

調査対象児 六五名  
教育相談出席 四六名  
障別内訳  
視覚障害 四名  
聴覚障害 二名  
肢体不自由 六名  
精神薄弱 二一名  
情緒障害 十二名  
身体虚弱 二名  
言語障害 一名  
重度心身障害 四名  
青い鳥学園(市外)十三名  
計 六五名

### 在学児

調査対象児 十九名  
教育相談出席 九名  
調査対象児 合計 八三名  
教育相談出席合計 五五名  
活動  
・調査打合せ 二回  
・幼保育園訪問  
・教育相談会 四回  
・資料整理 二回  
・就学指導委員会 二回

四月一八日 現職教育総会  
“二〇日 特殊担任者会  
六月 三日 推進協議会総会  
七月一五日 ライオンズクラブ招待社会見学